

ぼくら全員の渾身の力をもって

東北芸術工科大学 芸術学部文芸学科 学科長 教授
山 川 健 一

東北関東大震災の惨状は、ぼくらの想像力を超えている。とにかく、1人でも多くの人に生き延びてほしいと祈るばかりだ。

ぼくの自宅がある千葉の湾岸地域にある街では、液状化で多くの家屋が傾き、一時水浸しになり、今はあちこちにヘドロのような泥が溢れている。ぼくの家も傾いてしまい、上下水道もダメになっている。復旧の見通しが立たず、近所の公園の仮設トイレを使用していたが、そこもダメになり、今はけっこう遠くの公園か学校まで出かけなければならない。自宅は倒壊の恐れがあり危険なので、当初は小学校の体育館に避難していたのだが、「余震がきたら逃げればいいよ」ということで、家に戻ってきた。近所の人はみんな疲れきっている。それでも、東北の惨状には較べるべくもない。

ぼくは縁あって、東北芸術工科大学の文芸学科の創設に携わり、入学試験も終わり、後は入学式を待つばかりの状態だった。地震の翌日から、入学予定者の安否確認に追われることになった。全員の無事が確認できた時には、涙がこぼれた。

無事を知らせてくれた新入生のメールには、心を打たれた。

- 電気が通らず、戦時中のような暮らしをしています。夜は星が綺麗です。(K)
- 酒田では雪がまた積まりました。(O)
- 辛いときこそ笑顔！
「辛い」と「幸せ」は一線違い！
ロックンロール!!!
大学でたくさんの智恵や愛を育み世へ生み出しましょう！大学生活、楽しみにしています！充実させましょう！（I）
- 私も節電、節水、ボランティアなど、出来ることを頑張っていきたいと思います。(H)

被災地の東北地方では気温が上がらず、メールにもあるように、3月だというのに雪が降ってい

るところもある。千葉の湾岸にある避難所の体育館だって寒いのに、その比ではないだろう。赤ちゃんや高齢者の方を抱えた家族は、さらにたいへんだろう。

ミルクやオムツが足りず、途方に暮れてるお母さんのことがテレビで紹介されていた。他の人達だって食料品や衣料も足りず、ガソリンが買えないから移動もできない。

せっかく地震と津波を切り抜けて命が助かったのに、避難所が孤立したまま、亡くなっていく高齢者の方々がいる。

今回のことで、ぼくはとてもシンプルなことに気がついた。経済とは「食べる」ことなのであり「飲む」ことなのであり、「着る」ことなのだという事実である。さらに「寝泊まり」する場所を確保するというのが、とりもなおさず経済というものののだ。

東北を復興しなければならない。そうしなければ、日本の未来はない。それには、経済を立て直すしかない。その過程で、個人生活と仲間同士の絆を立て直していくしかないのではないか。会社や大学を、そしてこの日本という国を、ぼくら全員の渾身の力をもって、悲しみを乗り越えて復興しよう！……と、公園の仮設トイレで思ったのだった。

山川 健一（やまかわ・けんいち）

小説家。株式会社アメーバブックス新社取締役編集長。2011年4月より東北芸術工科大学芸術学部文芸学科学科長、教授。1953年7月19日生まれ。千葉市出身。77年『鏡の中のガラスの船』で「群像」新人賞優秀作受賞。以後、ロック世代の旗手として次々に作品を刊行。